

研究・調査報告書

報告書番号	担当
270	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol intake and 19-year mortality in diabetic men: NIPPON DATA80. 糖尿病男性における飲酒と 19 年間死亡率について	
執筆者	
Nakamura Y, Ueshima H, Kadota A, Hozawa A, Okamura T, Kadowaki S, Kadowaki T, Hayakawa T, Kita Y, Abbott RD, Okayama A; NIPPON DATA80 Research Group..	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol. 2009 Dec;43(8):635-41.	
キーワード	
飲酒、糖尿病、高血圧、死亡率	
要 旨	
目的： 日本人、糖尿病男性における飲酒量と死亡率の関連を明らかにする。	
方法： 全国より無作為抽出した 30 歳以上男女 1 万人を対象として 1980 年にベースラインを調査した NIPPON DATA80 コホートから、男性 4018 人についてと飲酒と死亡の関連について検討した。コックス回帰モデルにて、飲酒による全死亡および死因別死亡の多変量調整ハザード比を耐糖能別に算出した。	
結果： 男性 4018 人のうち、非糖尿病は 3614 人、耐糖能障害は 195 人、糖尿病は 209 人であった。追跡期間 19 年の間に全死亡 990 例、循環器疾患死亡 328 例、心疾患死亡 157 例を確認した。耐糖能障害および糖尿病患者において、非飲酒者を対照とすると、機会飲酒者および常酒者の循環器疾患死亡ハザード比 HR(95%信頼区間)は、それぞれ、0.43(0.15-0.95)と 0.45(0.25-0.80)であった。また、心疾患死亡ハザード比 HR(95%信頼区間)は、それぞれ、0.33(0.12-0.91)と 0.31(0.15-0.67)であった。	
結論： 日本人男性糖尿病患者においても一般集団と同様に、飲酒は循環器疾患死亡および心疾患死亡のリスク減少と関連を認めた。	